

四外交人民委員ノ決議ニ基キ貴下ハ東京本部長トシテ大阪、神戸、横浜、長崎、函館、名古屋及ヒ下ノ関ノ各支部ヲ統轄シ尚京都、広島、呉、金沢、仙台、福岡、札幌、横須賀、小樽、岡山、鹿児島、門司及和歌山ヘ支部並ニ細胞ノ配置、<sup>③</sup>プンジ改造ハ貴下ニ一任ス台北支部ハ本部ノ掌轄ヲ離レ長崎ノ指揮下ニ属セシメ朝鮮京城本部ハ釜山ヲ經テ下ノ関ト元山ヲ經テ浦潮ト連絡ヲ保チ青島及ヒ大連支部ハ日本区ノ権限ニ属スル諸件ニ関シ長崎ニ隸属シ在南洋諸島細胞ノ設置監督ハ之ヲ貴下ニ一任ス

(四)大使館職員通商代表属員トシテ日本区ニ在ル諸運動員並ニ「アレキサンドロフ」(浦潮)「マツヲキン」(哈爾賓)「ヘルシニコウイチ」(寛城子、奉天、大連)及ヒ「グロスマン」(浦潮、元山、釜山、下ノ関)ノ諸員並ニソノ部下モ又貴下ノ指揮下ニ立タシム同志「サイルジ」及ヒ「イビン」(広東、北京)ト連絡ヲ保チ相互ノ運動ヲ撞着セシメサル様努ムル事此ノ詳細ノ命令及ヒ報道ハ時々「コツプ」ヲ通シ電達ス

## 事項一四 ソ連邦ノ対外関係

四五九 一月八日 在リガ上田書記官ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

財政的困難ト党内紛争ノタメソヴィエト政府

ハ近キ将来自壊ストノ当地記者ノ観測ニツキ

報告ノ件

第一号(暗) (一月九日接受)

七日夜当地新聞協會開会式ノ際露西亞通ノ名アル二、三主ナル記者カ本官ニ語リシ所ヲ綜合スルニ労働政府カ外債絶望ノ為メ極端ニ金ニ窮シ国営事業収支償ハス共產党内訌ノ結果支部ハ本部ノ命ニ従ハサルノ傾向ヲ来シ農民ハ共產黨員ヲ憎ミ到ル所同黨員及官吏ヲ袋叩キニシ労働者中ニ共產党ヲ脱シテ所謂無所属党ニ加担スル者多ク兵卒ハ次第第二無所属ニ加担シ加フルニ同政府ノ外政機關タル「第三インタナショナル」ハ今や欧米諸国共同作戦ノ的トナリタリトシテ右記者ハ同政府カ一步一步最後ノ運命ニ向テ進ミツツアリトシ其倒ルル時期案外早ク本年上半期ニ来ルヘシトナ

一四 ソ連邦ノ対外関係 四五九 四六〇

スモノ多シ

当国外務省露西亞課長ノ如キモ同政府ハ本年中ニ最後ヲ告クヘシトノ見解ヲ有ス

四六〇 一月十六日 在浦潮渡辺総領事代理ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

ヒューズ國務長官ノ辞任ニヨリ米國ノ対ソ連

政策転換近シトノ観測記事ニ関スル件

第四号

往電第三号ニ関シ

果機關ハ爾来連日「ヒューズ」ノ辞任ハ「ボラー」ノ勝利ニテ「ボ」ト「クリーリッジ」ノ意見一致ハ米ノ対外政策殊ニ対露方針転換ヲ来ス可ク追テハ「ソヴィエト」承認審議會ヲ命スヘシトノ紐育伯林巴里等来電ヲ載セアルカ本十六日社説ニテ「ヒューズ」ノ執リタル西比利亞出兵以来ノ態度殊ニ華盛頓會議以来ノ対露惡宣伝(脱)「パナマ」「ドウ

七一五

ズ」案對英仏、對日本行動ヲ挙ケ Compers, Lodge 等ノ死後「ボラー」ノ擡頭ト「ヒューズ」引退ノ已ムナキ所以ヲ説キ Kellogg カ如何ニ反革命的ナルモ米國ノ「ソヴィエト」承認ハ近キニ在リト結論セリ

四六一 二月二十五日(着) 在米國吉田臨時代理大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

ソ連承認問題ニ關スル大統領ノ態度等ニ關ス

ル記事報告ノ件

第七七号

二十四日新聞報

一、紐育「ウワールド」ハ議會方面及大統領接近者ヨリ洩レタル処トシテ露國承認問題ニ關スル大統領ノ態度ハ從來聲明ノ通ニテ特ニ變リ無キモ露國事情調査委員派遣方ニ關シ「ボラー」ヨリ建議ヲ受ケ大統領ハ内々之ニ考慮ヲ加ヘツツアル由ナリト報ス

二、紐育「タイムズ」(二十二日)特電トシテ Piatakov (Chairman Concessions Committee) ハ日露協定ハ「シンクレア」契約ニ抵触ストノ非難ニ對シ該契約ハ期限内ニ履行セラレサリシ為無効ト成ルヘキ旨ノ陳述書ヲ公表シ

世界各地ニ於ケル石油利権獲得ニ關スル國際の競争ノ概況ヲ述ヘ日本カ露國ノ石油資源支配ニ痛切ノ利害ヲ感シ居ルコトニ言及シ「エー・ピー」華府通信ハ新國務卿ノ面スヘキ當面ノ國際關係事項ヲ叙スル中ニ露國承認運動ヲ再ヒ開始セラルヘク現ニ新國務卿ニ對シ右ニ關スル運動アルカ如シト述フ「ジョーナル・オブ・コマース」ハ「露國ト極東」ト題シテ独逸新聞ニ掲ケラレタル「カラハン」ノ聲明ハ余リ大胆ナル宣伝ニシテ却テ其價值ヲ減スルノ嫌アルモ夫レト識リツツ吾人ハ同氏ノ警告ニ傾聴ヲ禁セス一方ニ於テ將來日支露提携ヲ可能トセハ米國ノ輕視ヲ許ササル所ナルハ勿論ナルカ更ニ真劍ナルハ米國ニシテ日露ニ對シ速ニ適當ノ掣肘ヲ加フルニアラサレハ兩國ニ支那蚕食ノ機會ヲ与フルニ至ルヘク世界ニ於ケル東洋人種ノ霸權ノ如キハ米國人ニハ思ヒモ寄ラサルコトナルヘキモ決シテ一片ノ空想ニアラス況ヤ露國ノ經濟的及政治的復興援助ヲ東洋人ノ手ニ一任スル如キ政策ヲ持續スルニ於テハ益々其空想ニアラサル事態ヲ生スヘシト述ヘタ

四六三 三月三十一日 在ソ連邦佐藤臨時代理大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

タル由報シ同二次契約復活ノ為莫斯科ニ來着セル会社代表者ニ契約ヲ履行シ得サリシハ日本軍隊カ会社ノ派遣技師ヲ樺太ヨリ追放セルカ為ナリト説明セル由報ス華府「スター」モA・P電報トシテ同様ノ報道ヲ掲ク二十四日ノ「タイムズ」ハ在紐育「シンクレア」本部當局ハ日露協定中ニハ同会社ノ利益ヲ害スル事項アルカ如クナルカ北樺太北半ニ關スル日露間ノ懸案ハ未タ解決シタルニ非スシテ今後ノ商議ニ依リ決セラルル事ト成リ居ルモノニテ会社ノ利権カ無効ト成リタリトノ報道ハ「ミスリーディング」ナリ会社カ未タニ契約ヲ履行シ得サルハ日本カ事實上樺太全体ヲ支配シ居ル為ナリト説明セル旨報ス

四六二 三月四日(着) 在米國吉田臨時代理大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

ソ連承認ヲ支持スル米國新聞論調ニ關スル件

第九〇号

三日新聞報

露國問題華府新聞紙ヲ賑ハシツツアルハ最近顯著ナル処本日モ「ボラー」ハ露國承認輿論喚起ノ為遊説ノ予定ナル旨「ハースト」新聞ニテ伝ヘラレ「ワシントン・スター」ハ

次第二平穩ト秩序ヲ回復シツツアル当地ノ狀況トチチェリン外務人民委員ノ人物、活動振

リニツキ報告ノ件

第一九号(暗) (四月一日接受)

本官着任後首席大使タル波斯大使其ノ他独伊仏各國大使等ヲ訪問シ当地ノ狀況大要知悉スルヲ得タリ要領御参考迄電報ス

(一)約一年前ヨリ市内秩序立チ別段不安ナク食料品潤沢トナリ生活必需品モ品質劣等ニテ高価ナルコト其ノ比ヲ見サルモノ之ヲ數年前ニ比スレハ生活非常ニ樂ニナリタリトノコトニテ外國使臣ノ如キモ最初ノ間ハ「ゲー・ペー・ウー」ヨリ尾行サレタルモ現今ニテハ其ノ氣配ナシト云フ又官民共ニ態度頗ル鄭重ナルハ一般ノ定評ナリ要スルニ裏面ニ於ケル実情ハ未タ之ヲ知ルニ由ナキモ表面ハ少クトモ靜穩ニシテ一般ニ落着キタルモノノ如ク觀察セラル仏國大使ノ言ニ依ルモ農民モ亦流血ノ慘ヲ再ヒ見ルヲ欲セス只管平和ノ持續ヲ希望ス

赤色旗ハ例ヘハ仏國ニテハ叛亂暴動ヲ意味スルモ當國ニアリテハ秩序平和ヲ意味スト謂ヘリ一部ノ真理ナルヘシ

但シ窃盜ハ頻々ニシテ最近仏国大使館ニモ忍ヒ入り衣類ヲ持チ去リ又当館佐々木書記官モ本官着任前「ホテル」内ニテ同様ノ災厄ニ遭ヘリ

(二)「チチェリン」ノ人物才能ニ関シテハ各国代表異口同音称讃シ居レリ同人ハ確カニ傑出シ居ルノミナラス凡テノ方面ニ博學ナリト云フ本官モ明敏ニシテ決斷アリ且人ニ接シテ極メテ氣持好キ印象ヲ与フル人物ト直覺セリ当国外務部ハ一般ニ非常ノ勤勵ニシテ事務ノ敏活ヲ期シ居リ寧ロ感服ニ値スルモノアル処「チチェリン」ノ如キハ勉強家ノ最タルモノニシテ午後二時起床翌朝九時迄終夜事務ヲ執筆ス事務ハ国別ニ依リ数名ノ参与「コレージ」之ヲ分掌シ極東關係ハ参与會議員トシテ「チチェリン」直轄ニ付本官ニ取り大ニ好都合ナリ尤モ事共產黨ニ重要ナル關係アル事項ニ就キ交渉ヲ開始スル場合ハ外務部ハ殆ト無勢力トナルヲ予期セサルヘカサルカカ如シ

(三)「コップ」ノ人物ニ関シテハ其後独逸大使モ大ニ称讃シ居タリ彼ノ前身ハ審カナラサルモ同大使ノ言ニ依レハ独逸ニテ成人セルモノノ如ク独語モ巧ミナリト云フ仏、英ヲ解セル猶太人タルコトモ疑ナキモノノ如ク最初ハ「メ

ンシエウイキ」ニ属シ次テ「ポリシエウイキ」ニ変セリトノ説アリ

仏、支那へ転電シ「リガ」へ郵送シ仏ヲヘテ在欧各大使、瑞典、「チエコ」、波蘭、羅馬尼へ郵送セリ

四六四 四月二十一日 在ソ連邦佐藤臨時代理大使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

シベリア經由ノ旅客運輸ノ再開ノタメノ交渉

開始ニツキソ連側ガ異議ナキ旨回答ノ件

第六四号

(四月二十二日接受)

往電第五五号ニ関シ

西伯利亞經由旅客直通運輸再開ノ件「ソビエツト」政府側ニ於テモ主義上同意ナルニ付日本鉄道省カ労働交通部ト本件ニ関スル交渉ヲ開始スルニ異議ナキ旨二十一日当国外務部極東課長ヨリ回答アリタリ尚右交渉開始ノ実行方法トシテ日本側ヨリ協議事項及協議ノ場所日本側委員ノ顔触等前以テ通知ヲ得タク左スレハ再応交通部ト協議シ交通開始ニ関スル確定的回答ヲ発スヘシト付言セリ右ニ関シ同課長ノ説明ニ依レハ莫斯科、哈爾濱、浦潮間直通列車ノ運輸ハ主義上決定シ居ルモ技術上故障ノ為メ未タ実行ヲ見ルニ至ラ

ス知多、満州里ニテ乗換ヲ要スル次第ナリトノコトナル処若シ前頭日露旅客直通輸送交渉開始セラレ差当リ直通切符ノ販売及手荷物ノ直通取扱ヒ丈ニテモ実現シ得レハ旅客ノ便宜大ナルヘク又途中ノ乗換廢止ヲ促進スル一助トナルヘキハ勿論前記拙電記載ノ浦潮、莫斯科、里賀間「トランドリュックス」機關ノ運輸ヲ再開シ略戦前ノ状態ニ回復セシムルニ至ル動機ヲ作り得ルヤモ計リ難シ就テハ前述「ソビエツト」側希望ノ協議事項至急本官迄電報アリタク協議地ハ卑見ニ依レハ莫斯科カ最モ便宜ト思考セラル「ソビエツト」側ニテモ異議ナキ様ナルモ東支及烏蘇里線代表者ヲ参加セシムル必要上或ハ哈爾濱ヲ適當ノ地点トスルヤモ知レヌ御参考迄申添ユ

四六五 五月十八日 在ソ連邦佐藤臨時代理大使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

ソヴィエト大会ニ於ケルチチェリン外務人民

委員ノ演説要旨報告ノ件

第一一七号

(五月十九日接受)

十四日全「ソビエツト」第三大会ニ於ケル「チチェリン」氏ノ演説中主要点左ノ如シ

一四 ソ連邦ノ對外關係 四六五

『吾人ノ外交政策ノ根本方針ハ世界ノ平和關係ヲ樹立セムカ為メ衷心ノ努力ヲ為スニ在リ戦争ハ吾人ノ欲スル所ニ非ス而シテ連邦内ノミナラス全世界ノ労働階級ノ希望スル所ニシテ最初ノ労働政府トシテ國際間ニ立チ平和維持ヲ標榜セル吾人ハ飽ク迄其標榜ノ事実ナルヲ労働階級ニ対シ明示スヘキ大ナル責任ヲ有ス外交政策ハ常ニ攻撃及守備上ノ見地ニ其ノ基礎ヲ置クモノナルニ反シ労働政府ハ平和維持ニ努力スルモノナルヲ以テ其政策ノ關スル所守備上ノ問題ノミニシテ何等攻撃的性質ヲ帶ヒサルニモ拘ハラズ資本國諸新聞ハ種々ノ流言蜚語ヲ伝ヘ例ヘハ強國カ弱國ニ対シ益々帝國主義的支配ヲ加ヘムトスル目的ニ出テタルニ過キサル武器取引國際會議ニ吾人カ参加ヲ拒絕セルニ対シ平和ヲ攪乱セムトスル意アルモノト為シ又何等吾人ノ干与セサル「バルカン」ノ混乱ニ関シ吾人ニ其責ヲ帰セムトス

現今帝國主義諸國ノ吾人ニ対スル政策態度ニ二種ノ傾向アリ即チ彼等一団トナリ吾人ニ抵抗セムトスルモノト彼等ノ一国或ハ數ヶ國カ吾人ヲ其味方ニ引入レ他國ニ對抗セシメムトスルモノナルカ最近前者ノ政策採用セラレツツアルモノノ如ク英國外相ハ公然同政策ヲ執リタル事ナク又將來モ

執ラサル事ヲ宣言セリト雖モ吾人ハ新聞等ニ於テ英國ノ政策ハ一般資本國ノ吾人ニ對スル敵意ヲ益々強ムルニ与ツテカアル事ヲ知レリ

然レトモ吾人ノ努力スル所ハ英國ハ勿論其他諸國トノ善良關係ノ樹立ヲ計ルニ在リテ波蘭トノ關係ノ如キモ同國軍閥ノ敵對の行為ニモ拘ハラス同國平和分子ト堅キ同意ヲ得テ紛争ヲ減シ兩國間ノ經濟の良好關係ノ發達ヲ計ラムトス即チ吾人ハ部分の問題ノ為メ平和的外交政策カ犠牲トナルヲ欲セス全世界労働階級ノ利益ノ為メ對外關係ノ改善及經濟關係ノ發達ヲ計リ民族ノ自立ヲ助ケ軍備ヲ縮小シ戦争ノ危険ヲ除カム為メ努力シツツアルモノナリ

在仏大使ハ電シ同大使ヨリ在欧各大使、波蘭、羅馬尼、

「チエツコスロヴァキア」ヘ郵報セリ「リガ」ヘ郵報セリ

四六六 七月二十四日 在ソ連邦田中大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

政府ト共產党トノ疎隔、政府・党ノ実力者ノ

動靜ナドニ関スル当地英國代理大使ノ觀察報

告ノ件

第二九五号(極秘) (七月二十五日接受)

濟的ニハ復興シツツアリ併シ農工業労働者何レモ戦前ニ比シ收入多カラス不平ノ声アリ特ニ工業ハ工場設備破損磨滅セル所多ク之カ恢復ハ外資ヲ待タサレハ困難ナリ露國ノ問題ハ政治的ヨリモ寧ロ經濟的ニ存ス

(一) 共產党ハ其ノ迷夢ヲ破リ外國ノ信用ヲ博スル方法ニ出テサル限り露國ノ發展ハ困難ニシテ一般民衆ノ不平ハ益々濃厚トナルヘシ一方政府モ數年ノ經驗ニ依リ確信ヲ有スルニ至リタルヲ以テ結局共產党ノ色彩ハ次第ニ消エ再ヒ革命ノ慘事ヲ見スシテ其ノ支配ヲ繼續スルニ至ルヘキモ一時共產党ノ直参者カ如何ナル辣腕ヲ振ヒ時局ヲ攪乱スヘキヤ予言シ難シ

(二) 当政府ノ欠点ハ極度ニ邪推深ク一般露國人ヲシテ外交團ニ接近セシメサル点ナリ自分ハ現ニ外國人トノ交通ヲ禁スル一般秘密訓令ヲ入手セリ自分ノ使用セル露國中政府ヨリ非常ノ圧迫ヲ受ケ館内ノ模様ヲ一々政府ニ報告セルコトヲ自由セルモノアリ強硬ニ政府ニ抗議シタルコトアリタルカ国交円満ナラサル国例ヘハ波蘭及英國等ニ對シ特ニ此ノ種ノ手段ヲ弄スルモノノ如ク此ノ方法ハ何等効果ナキノミナラス自己ニ不利ナル旨露國側ニ指摘シタルコトアルモ自

一四 ソ連邦ノ對外關係 四六七 四六八

当地英國代理大使ハ有名ナル露國通ナルカ腹藏ナキ意見トシテ述ヘタル所大要左ノ如シ

(一) 当國政府ノ黒幕ハ共產党ナリ其内ニ於テモ有力ニシテ手腕アルハ「スターリン」ニシテ「ジノビエフ」「トムスキ」等之レニ次ク外交團ハ之等ノ人物ト全ク没交渉ニシテ面会スルコトサヘナシ

(二) 近時顯著ナル事實ハ勞農政府ト共產党トノ疎隔ナリ之レ國家安定シ政權確立スルニ從ヒ起ルヘキ当然ノコトニシテ独逸革命後ノ經過ニ類似ス共產党ハ外國トノ調和妥協ヲ望マス世界ノ革命共產ヲ夢ム外交ニ惡影響ヲ及ホスカ如キ宣傳ヲ流布スルハ常ニ共產党ノ仕業ナリ政府ハ必スシモ然ラス実行機關トシテ可成外國トノ協調ヲ望ム而シテ概シテ政府ノ力ハ漸次増加シ共產党ハ漸次民心ヲ失ヒツツアリ

(三) 然レトモ共產党對政府ノ確執ニ伴ヒ過渡的ノ現象トシテ政府ノ要路者カ時々勢ヲ失墜スルコトアルヲ免レス「トロツキー」ノ如キハ既ニ心身共ニ凋落ノ途ニアリ

「チチエリン」モ最早下坂ニアリ共產党内ニ同氏ニ反對スル暗流アリ

(四) 農業ハ露國ノ根底ニシテ本年ノ收穫モ良好ナルヲ以テ經

己ノ國情ヲ隱蔽シ外國ノ内情ヲ探知セントスル癖ハ容易ニ改メ難キモノノ如シ

四六七 七月二十四日 在ソ連邦田中大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

ソヴィエト政府ノ前途ニ對スル当地外交團ノ

樂觀的意見ニツキ報告ノ件

第二九六号 (七月二十五日接受)

当地外交團ノ主ナルモノト会见シタル処ヲ綜合スルニ住宅ノ欠乏、物価ノ高値其他生活上ノ不便ニ付テハ不平ナルモ勞農政府ニ對スル態度ハ極メテ同情的ニシテ興味ヲ以テ此國ヲ研究シ前途ニ對シ多クハ樂觀的意見ヲ有ス特ニ政府当局者ノ勉勵努力ニ對シテハ一樣ニ稱讚シ居レリ尚本使ニ對シテハ何レモ懇切且開放的ニシテ立入りタル質問ニ對シテモ喜ンテ応答スル傾向アリ

四六八 八月二十一日 在ソ連邦田中大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

米ソノ接近ノ可能性、兩國經濟關係ノ將來ニ

関スルトロツキーノ米新聞特派員ヘノ談話報

告ノ件

第三四二号

(八月二十三日接受)

(第三〇五号全文再電)

七月三十日ノ「イズベスチヤ」ニ依レハ「トロツキー」氏  
 〓 United Press 「モスコ」特派員ニ対シ「米露接近ヲ  
 可能ナラシムル政治上及經濟上ノ原動力如何並ニ」(一)外國資  
 本ハ如何ナル形及程度ニ於テ勞農露國ノ復興ニ貢獻シ得ヘ  
 キヤトノ質問ニ答フル所アリタル趣ナルカ右回答ノ要領左  
 ノ如シ

(一)勞農露國及資本國家間ノ經濟關係ノ發達ヲ阻害スルモノ  
 ハ資本國家カ革命ニ対シテ有スル恐怖ノ觀念ニシテ此ノ觀  
 念ハ自國ノ内政狀態カ惡シケレハ惡シキ程大ナルヘキ所米  
 國ノ内政狀態ハ歐洲資本國ニ比シテ遙ニ良好ナルヲ以テ米  
 國政治家ハ「モスコ」カ革命ノ中心ナリトノ迷信ニ脅威  
 ヲ感スヘキ理由ナキ筈ナリ是レ米露接近ノ政治上ノ原動力  
 トス更ニ其ノ經濟上ノ原動力ニ關シテハ勞農露國カ今後數  
 年内ニ世界ニ於ケル最モ有力ナル市場トナルヘキニ鑑ミ兩  
 國カ接近スヘキハ明ナリ唯露國ノ外國貿易独占制度ニ付世  
 上悲觀の見解ヲ有スルモノアルモ是レ露國ノ輸出入ノ過少  
 ナルト同制度カ有史以來初メテノ試ミナル為メタ円満ナル

運用ヲ欠クニ依ルニ外ナラス然レトモ露國ノ對外取引ハ必  
 ス其ノ額ヲ増加スヘク物資ノ交換及分業ニ關スル法則ハ世  
 界ノ一國カ社会主義ヲ採用スルト否トニ依リ變化ナキ筈ナ  
 リ露國ノ外國貿易独占ハ米露通商關係ヲ只ニ阻害セサルノ  
 ミナラス却テ之カ為メ米國ノ集中の産業カ茲ノ趣味等ヲ考慮  
 スルヲ要セサル利便ヲ有ス

(二)勞農露國ハ今ヤ(イ)農村ノ機械化殊ニ「トラクタ」ノ  
 設備(ロ)産業ノ基本的資本ノ復活ノ二大事業ヲ企圖ス米國産  
 業トノ協力ハ農村ノ機械化電化等ノ關係ニ於テ特ニ重大ナ  
 リ又露國ノ經濟復興ノ為メ米國ノ与フル借款ハ必ス確實ナル  
 利益ヲ擧ケ得ヘシ云々

四六九 九月十七日

在ソ連邦田中大使ヨリ  
 幣原外務大臣宛(電報)

露國學士院二〇〇年祭ニ參加セシ福田徳三氏

ヨリ會議ノ模様ノ報告伝達方依頼ノ件

第三八九号

(九月十八日接受)

出淵外務次官へ福田徳三ヨリ

帝國學士院長へ左ノ通伝達ヲ願フ

露國學士院二百年祭ハ去ル五日「レニングラド」ニテ開會

方問合スモ遂ニ到着シ居ラス甚タ遺憾ナリ已ムヲ得ス其ノ  
 趣ヲ露國學士院幹事「オルデンブルグ」博士へ書面ヲ以テ  
 申入レ置キタリ小員十八日發巴里へ歸ル右報告ス

四七〇 九月二十六日

在ソ連邦田中大使ヨリ  
 幣原外務大臣宛(電報)

チチェリンハドイツへ療養ニ赴キシ旨報告ノ

件

第四〇四号

(九月二十七日接受)

「チチェリン」ハ二十五日出發「ワルソー」經由伯林ニ向  
 ヘリ同地ニテ医師ノ診察ヲ受ケタル後独逸若ハ諾威ノ温泉  
 ニテ療養シ十二月上旬歸任ノ筈不在中「リトヴィーノフ」  
 代理スヘシ但シ東洋事務ノ分ハ「カラハン」ノ手ニ移ルヘ  
 キハ既電ノ通

四七一 十月十四日

在獨國鍋島臨時代理大使ヨリ  
 幣原外務大臣宛

チチェリンノベルリン來訪並ビニソノ活動ニ

關シ報告ノ件

機密第三七号

(十一月二十七日接受)

大正十四年十月十四日

在独

臨時代理大使 鍋島 二郎 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

「チチェリン」ノ来伯並其ノ活動ニ関スル件

「ソヴィエット」連邦外交委員長「チチェリン」ハ波蘭ニ於ケル用務ヲ終リ九月三十日朝伯林着同夜直ニ外相「ストレーゼマン」ノ晩餐会(陪賓露国側「クレチェンスキー」大使独逸側外務次官「フォン・シュールベルト」等外交関係者)ニ臨ミ翌十月一日宰相「ルーター」ヨリ午餐会(陪賓露国側「クレチェンスキー」大使独逸側「ストレーゼマン」「フォン・シュリーベン」「シーレ」「ゲスラー」ノ各国务大臣外若干国會議員)ノ招待ヲ受ケ十月六日夜「ヒンデンブルグ」大統領(同日午後帰省地ヨリ帰伯)ニ謁見シタリ其ノ間十月一日及二日外相「ストレーゼマン」ト会谈セリ

抑々「チチェリン」来伯ノ第一ノ目的ハ「ロカルノ」會議開催ニ先チ独逸ノ國際連盟加入並ニ保障条約締結ニ関スル底意ヲ叩クニ在リシコト疑ヲ容レス彼カ「ワルソー」ニ於テ独逸ノ連盟加入ハ「ラパロ」条約ニ反ストナシ又保障条

キ何等此種ノ約束アリシコトハ略々事実ト推ス可ク「チチェリン」ハ此約束ヲ駄々ヲ捏ネル種子ニ用ヒタリト見ルヘキニ似タリ而シテ独逸ノ連盟加入ニ対スル露国ノ杞憂ハ第十六条ノ適用ニヨリ独逸カ對露作戦ニ利用セラルルコトアル可シト云フニ在ル所独逸モ亦軍事上經濟上第十六条ニ関スル留保ヲ為スヲ便トスル立場ニ在ルヲ以テ寧ロ自家ノ打算ヨリ第十六条留保ノ約束ヲ為セルモノト見ル可シ

又露独通商条約ハ試験的ニ差当リ二年間実施セラルルモノニシテ「チチェリン」来伯ノ機会ニ調印ニ決シタルハ独逸側カ「チチェリン」ニ花ヲ持タセタルモノト観測ス可シ

又「チチェリン」訪独ノ第二ノ目的ハ独逸ヨリ約一億馬克ノ借款乃至実物信用ヲ取り付クルニ在リ着伯以来奔走ノ結果露国国立銀行ト独逸銀行团トノ間ニ協定成立シ独逸側ハ七千五百万馬克ノ借款及二千五百万馬克ノ実物信用ヲ露国ニ許シシタルカ何レモ短期貸出ニテ期限ハ五六ヶ月ナリ借款ノ形式ハ露国カ独逸ニ於テ買入ルヘキ物品(主トシテ農具)ニ対シ国立銀行ヨリ手形ヲ振出シ之ヲ關係独逸

約ノ締結ハ露国ヲ捨テテ對露軍事同盟ニ参加スルモノナリト声明セル如キハ畢竟一ノ前触レニシテ諸種ノ情報ヲ綜合スルニ独逸外相トノ会見ニ於テ「チチェリン」ハ此二点ヲ提ケテ「ストレーゼマン」ニ肉薄シ切リニ露国ノ孤立ヲ訴ヘタルカ如ク之ニ対シ「ストレーゼマン」ハ独逸ノ連盟加入ハ却テ露国ノ利益ヲヨリ良ク擁護スルノ結果ヲ齎ラス可ク又保障条約締結ハ独逸カ露国ヲ捨テテ對露同盟国ニ趨リタルヲ意味スルモノニアラス從テ独逸ハ飽ク迄此点ニ関スル行動ノ自由ヲ留保スト断言シツツ一方露国ノ感情ヲ害セサル為メ且ハ自国ニ取リテモ利益ナルコト故連盟加入ニ際シテハ第十六条ハ必ス留保スヘシト約シ又懸案中ノ露独通商条約ノ調印ヲモ約セリト云フ

「チチェリン」カ切リニ独逸ノ連盟加入ヲ以テ「ラパロ条約」ノ違反ナリト宣伝スル裏面ニハ露独間ニ何等密約ノ存在ヲ疑ハシメシカ「ストレーゼマン」カ「マタン」記者ノ質問ニ答ヘタリト称セラルル所ニヨレハ「ラパロ」条約以外何等露独間ニ密約ナキモ同条約調印ノ際独逸ハ國際連盟加入前露国ト相談ス可シトノ口頭約束アリシトノコトナルカ其ノ約束カ口頭ナリシヤ否ヤハ姑ク措

銀行カ割引スル方法ニ依レリ

其ノ他彼ノ行動ニシテ著シキモノハ数々新聞記者ヲ接見シテ露国一流ノ得手勝手ナル宣伝ヲ為スコトニシテ其ノ槍玉ニ揚ケラレシ当ノ敵役ハ別添(「チチェリン」会見談要領)所載ノ通り主トシテ英国ナリ尚「チチェリン」ハ引続キ伯林ニ滞在中ナルカ恐ラク「ロカルノ」會議ノ形勢ヲ觀望シ居ルモノナルヘク從テ離伯ノ時期亦全ク不明ナルモ彼自身ノ声明ニ拠レハ其ノ後独逸又ハ奧太利ノ温泉地ニ於テ療養シ十一月末日帰莫ノ予定ナリト云フ

(別紙)

「チチェリン」ノ新聞記者ニ与ヘタル会見談要領

一、露独關係

(1) 独逸ノ保障条約及國際連盟加入問題

保障条約締結ハ英國ノ露独離間策ニ基クコト争フヘカサル事実ニシテ殊ニ最近新聞紙上ニ暴露セラレタル「チェムバレン」ノ仏国政府ニ宛テタル覚書中「中欧戰敗諸国カ露国ノ復興ニ伴ヒ之ト軍事的同盟ヲ締結スルノ虞アルハ極

メテ見易キ理ナル処此際英國政府ハ独逸ヲ國際連盟ニ加入セシメ独逸ト西欧諸国トノ利害關係ヲ密接ナラシメ「ドーズ」案ハ其ノ成功セル一例ナリ」尚更ニ一步ヲ進メテ独逸ト西欧諸国トノ間ニ相互領土ノ非侵略ヲ目的トスル保障条約ヲ締結スルコト極メテ切要ナリト信ス蓋シ独逸ハ之ニヨリテ現在ノ「ソヴィエト」連邦及将来ノ露国ト軍事同盟ヲ締結スルコト不可能トナレハナリ云々」トアルニ徴シ愈々明瞭ナリ

而シテ本問題ト関連シ露国ニ最重大ノ關係ヲ有スルハ独逸ノ連盟規約第十六条留保問題之ナリ即チ英國ハ本条項ニ依リ仏国ト共ニ独逸ヲ強制シテ軍事上經濟上對露同盟ニ参加セシメ以テ一方仏国ノ保護者トシテ之ニ恩ヲ売リ他方將來波蘭ヲ犠牲トシテ独逸ニ交換利益ヲ与ヘントスルモノナルカ独逸政府ハ固ヨリ之ヲ希望セサルコト余ノ信シテ疑無キ所ナリ從テ此際独逸ノ第十六条留保ハ一般平和ノ保障ノ為メ將又露波間爭議ノ平和的解決ノ為メ絶對ニ必要ナリ余ハ「ストレーゼマン」外相ニ對シ特ニ本条ニ伴フ一切ノ危惧ニ關シ切言シタリ

(2)露独通商条約及露独經濟關係

近々通商談判開始セラルヘシ云々ト述ヘタリ

二、英露關係

露独關係ニ関連シ専ラ英國ノ排露政策ヲ攻撃シタルハ前述ノ通ナルカ尚其ノ他ノ事項ニ關シ左ノ如ク英國ヲ非難セリ

英國保守党カ最近ノ選挙ニ勝利ヲ得テ英露一般並通商条約ノ締結ヲ不能ナラシメタル為メ英露係争問題ハ依然トシテ解決セラレサル処事茲ニ至リタル責任ハ露国ニ在ラス露国ハ是等懸案解決ノ為メ英露會議ノ開催ヲ一再ナラス提議シタルニ拘ラス英國保守党政府ハ常ニ之ヲ拒絕セリ蓋シ彼等ハ「ソヴィエト」露国ハ主義上英國ノ侵略政策ト相容レスト為スモノニシテ而モ彼等ハ毫モ自己ノ非ヲ改ムルコト無ク只管保障条約及國際連盟等ヲ利用シテ極力露国ヲ國際的孤立ニ陥レントシツツアリ而シテ英國ノ排露政策ハ右ノ如キ外交方面ノミナラス亦実ニ經濟的方面ニモ及ヒ英國政府ノ勢力下ニ在ル英蘭銀行ハ吾人ノ英國品購入ニ充ツヘキ費用ノ借款ヲ拒絕シ剩ヘ他国ニ於ケル吾人ノ借款運動ヲモ妨害セントセリ

三、米露關係

露独兩國カ兩國經濟組織ノ根本的相違ニ基ク非常ナル難關アルニ拘ラス能ク近々通商条約締結ノ運ニ達シタルハ独逸ノ「ラパロ」条約尊重ノ証左ニシテ露独親善ノ為メ余ノ欣賀措ク能ハサル所ナリ抑々農工業ノ迅速ナル発達ハ露國經濟的復興ノ要件ナル処本年度ニ於ケル露國農作物ハ近年稀ニ見ル豊作（昨年度ノ二十六「パーセント」増一九一三年度ノ八十七「パーセント」）ニシテ工業亦漸次戰前ノ域（本年度ノ生産高戰前ノ約七十「パーセント」）ニ達シツツアルモ今後益々生産資本ヲ潤沢ナラシメ生産物販路ノ擴張愈々必要ナルコト勿論ニシテ從テ露国ハ目下外國借款ノ成立及通商開始ニ全力ヲ尽シツツアル処本年ノ農作ハ外國借款ノ成立ニ利便ヲ与フルコト甚大ナルヘク將又露独通商条約ノ締結ハ兩國親善ノ象徵タルノミナラス亦実ニ兩國ノ共存共榮上極メテ重大ナル意義ヲ有スルモノト言ハサルヘカラス（註）

註、尚露国ト諸國間ノ通商条約ニ關シ波蘭トノ間ニハ独逸ノ例ニ倣ヒ近々成立ノ運ニ至ルヘク諾威トノ間ニモ目下準備中ナリ波蘭トノ間ニモ間モ無く締結セラルヘク日本「アフガニスタン」土耳其トノ間ニモ

米国民モ亦勞農露国ノ真相ヲ解セサル結果米國ノ外交亦排露のニシテ從テ正式外交關係ノ不存在カ兩國ノ政治的經濟的接近ニ及ボス障害甚大ナリト雖モ兩國政治的利害ノ衝突ハ單ニ歐洲ノミニ限ラレ支那ニ於テハ兩國ノ政策寧ロ近似セルカ如ク兩國ハ政治上經濟上漸次接近セントシツツアリ二三米國銀行ハ吾人ニ露國工業ニ欠クヘカラサル米國棉花買入ニ充ツヘキ資金ヲ融通シ露國ニ對スル新聞論調亦概シテ改善ノ傾向アリ將又政治家中「ボラー」ノ如キハ夙ニ親露的態度ヲ示シ「クーリッヂ」大統領亦觀望的態度ヲ持スルニ似タリ

四、仏露關係

仏露間外交關係既ニ復活シ從テ通商及實業的關係亦迅速ニ發展シツツアリト雖モ仏國政府カ戰前債務問題ニ關シ責任ヲ回避スル為メ本問題ノ解決遷延スルハ遺憾ナリ

五、伊露關係

經濟的必要ハ兩國ヲ接近セシメ兩國間ノ貿易ハ夙ニ円満ニ發展シツツアリ外交上何等利害ノ衝突スルモノ無く内政不干渉亦兩國ニヨリ嚴守セラレツツアリ

六、露国ト波蘭其他隣接諸邦トノ關係

余ハ今回ノ「ワルソー」訪問ニヨリ直接波蘭外交界ノ首脳ト意見ヲ交換シタル結果露波間懸案円満解決ニ関スル波蘭政府ノ希望全然吾人ト一致スルヲ見タルカ此上ハ速ニ是等懸案ノ解決殊ニ両国通商条約締結ニ全力ヲ尽スヘキナリ而シテ露波間ノ平和維持ハ吾人ニ兩國ノ為メノミナラス一般平和ノ為メ絶対ニ必要ナリ其ノ他ノ隣接諸國ニ関シテハ芬蘭及「リトアニア」兩國トハ依然トシテ親善関係保持続シ「ラトヴィア」ハ対露軍事會議ニ参加シタルモ其後兩國々々漸次改善セラレ唯「エストニア」ハ対露軍事會議ヲ首唱シタル以來同國トノ関係稍々緊張ノ氣味アリ

七、日本及支那トノ関係

日露條約ノ成立ハ外交上特筆スヘキ事件ナルノミナラス日本ハ露國ニ対シ最熱誠ナル友情ヲ示セリ若シ夫レ支那國民黨ノ運動ニ対シテハ吾人ハ或ハ言論ニヨリ或ハ外交文書ニヨリ満腔ノ同情後援ヲ与ヘタリ之レ同時ニ英國保守黨政府ノ排露政策ヲ熾烈ナラシメタル所以ナリト雖モ民族自決ハ吾人ノ根本主義ニシテ支那ハ支那人自身ニヨリテ始メテ繁榮シ延イテハ全人類ノ發展ニ貢獻スヘキハ吾人ノ確信シテ疑ハサル所ナレハナリ(註)

註、尚露國カ傍觀者トシテ國際連盟ニ關係スル意思アリヤ否ヤノ質問ニ対シ全然之ヲ否定シ且独逸ノ連盟加入ハ露國ニ有利ナリヤ否ヤハ頗ル疑問ナリトシ將又仲裁條約締結問題ニ関シテハ露國ハ其ノ国情全ク他國ト異ナル關係上第三國ノ客觀的裁判ニ服スルコト絶対ニ不可能ナルニ付目下ノ処問題トナラスト答ヘ又非侵略條約ノ締結ハ可能ナルヘキモ其ノ実益如何ニ至リテハ頗ル疑問ナリト答ヘタリ(終)

四七二 十月二十八日

在チエツコスロヴァキア國菊池公使ヨリ  
幣原外務大臣宛

ソ連承認ハ近ク実現スヘシトノ當國外相談話  
報告ノ件

機密公第二五号

(十一月二十五日接受)

大正十四年十月二十八日

在致須國

特命全權公使 菊池 義郎(印)  
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

露國承認問題其他ニ関スル當國外相ノ談話報告ノ件  
本月二十七日日致通商條約調印打合せノ為外務大臣「ベネ

シユ」ヲ訪問セル際歐洲現下ノ政局ニ付同外相ノ意見ヲ敲キタルカ當國露國承認問題其他ニ関スル本使ノ質問ニ対シ同氏ハ大要左ノ如ク答ヘタリ

一、露國承認問題ノ行悩メルハ既ニ嘗テ御話シタル如ク主トシテ國內ニ於ケル國民々々主黨ノ反対ニシテ同黨ハ今尚反抗ヲ止メサルモ總選舉ノ結果國民々々主黨ハ半減ス可キ自分ノ見込ニテ其他本問題ニ不利益ナル意見ヲ有スル分子ハ新議會ニ於テ著シク減少スルモノト觀測シ居レハ新議會ノ構成ト共ニ問題ハ急ニ進展スヘキカト思ハレ露國承認ハ不遠實現スルモノト思考ス

一、同氏ハ「ロカルノ」條約ヲ衷心最モ歡迎シ居ルモノノ一人ニシテ同條約ハ今後歐洲平和ノ敷石ト看做サルヘキモノニシテ又仏致間ノ保障條約ハ昨年一月締結セラレタル兩國間政治條約ト共存シ相互ニ補充シテ兩國ノ安全ヲ保障スヘシ

右露國承認ニ関スル談話ニ関シ「ベネシユ」ノ所屬スル「チエック」國民社會黨ハ國民主義ナル点ニ於テ國民々々主黨ト地盤關係ヲ共通ニシ從テ兩黨間ノ關係ハ地盤ノ爭奪上最モ反撥性ヲ有シ既ニ國民々々主黨「モラヴィア」派首領ニシ

テ同黨ノ進歩主義ヲ代表シ「ベネシユ」ト親交アリト称セラレタル「ドクトル・エングリシユ」(「チエルニー」内閣ノ大藏大臣)「ドクトル・ドランスキー」(當國ニ於テ最大發行數ヲ有スル「リトラ・ノヴィニ」主筆)等カ客月中所屬黨ヨリ脱退シタル事實アリ此等事情ヲ背景トシテ考察スレハ「ベネシユ」亦國內政治家トシテハ黨人タルヲ出テサルノ嫌アルモ各般ノ事情ハ本月十二日付機密公第二四号末段上申ノ通ニシテ本件ノ結末遠キニ非サルヲ思ハシム

右報告ス

四七三 十二月十六日

在オーストリア國赤塚公使ヨリ  
幣原外務大臣宛

ソヴィエトノ東方政策ニ関スル中央執行委員  
指導部ノ決議報告ノ件

機密第三六号

大正十四年十二月十六日

在壤

特命全權公使 赤塚 正助(印)  
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿  
露國ノ東方政策ニ関スル中央執行委員指

導部ノ決議ニ關スル諜報送付ノ件

本件ニ關スル諜報何等御参考迄茲ニ送付ス

露國ノ東方政策ニ關スル中央執行委員指導部ノ決議

十二月四日東方ニ於ケル露國ノ政策ニ關シ中央執行委員ノ指導部ノ特別會議アリ議長ハ「カメネフ」書記官「レワヤ」報告者「レフェレント」及東方部長「アラロフ」等出席セリ露國ノ利害ノ立場ヨリ見タル東方一般ノ狀況ニ關スル「アラロフ」ノ報告アリシ後「ジノヴィエフ」「リトヴィノフ」「ラデック」及「ブレオブラジェンスキ」等各自意見ヲ交換シタル後中央執行委員指導部カ満場一致ニテ左ノ如ク決セリ

一、独逸カ英國ノ政策圏内ニ引入レラレタル以上世界革命ハ單ニ東方ニ於ケル被压制國民ニ對シ十分ノ支援ヲ与フル場合ニ於テノミ實現スルコトヲ得

二、露國ノ東方政策ニ於テ支那問題及「モスール」問題カ最も重要ニシテ從ツテ主眼點ヲ此ニ置キ凡テノ責任アル共產「インター」員ハ之ヲ心ニ置カサルヘカラス

三、各國ニ於ケル事業ハ決シテ之ヲ中絶シ又ハ手ヲ弛ムヘカラサルモ其ノ活動ノ程度ハ左ノ階梯ニ依ラサルヘカラス

第一、支那「シリア」及「モロッコ」

第二、朝鮮印度及埃及

第三、日本印度支那及波斯

第一階梯ノ各國ニ於テ國內ニ永久ニ沸騰ノ形ニ置キ新ナル宣傳中心ヲ設ケ既ニ開始シタル事業ハ益々之ヲ盛ナラシメサルヘカラス

第二階梯ノ各國ニ於テハ準備の事業ヲナスヲ要ス過早ニ鋒鋳ヲ表ハシ又ハ擾亂ヲ起スコトハ第三ノ各國内ニ十分強勢ナル共產宣傳ノ中心成形セラルル迄ハ之ヲ避クルヲ要ス

第三階梯ノ國ニ於テハ共產「インター」ノ黨員ノ幹部ヲ組織的ニ増大シ共產細胞ヲ成形シ以テ革命的勢力ノ基礎ヲ作り第一及第二階梯ノ諸國ニ於テ爆發スルト同時ニ之レニ応シテ起チ得ル様セシメサルヘカラス

四、土耳其ニ對シテハ「モスール」問題ニ就キ十分ナル精神の支援ヲ与フルヲ要ス但シ第二階梯ノ諸國ニ於テ反英の組織的暴動ノ起ル前ニ英國ト衝突スルハ有利ナラサルヲ以テ表面上英國トノ紛争ハ断然之レヲ避ケサルヘカラス

五、支那ノ民族の運動ハ全力ヲ尽シテ之レヲ支援スルヲ要ス此ノ運動ハ共產「インター」ノ目的達成ノ為ノ一大事業

六、此ノ決定ハ外國ニ於ケル各政治代表者及共產「インター」指導者ニ通知シ此ノ決定ニ基キ凡テ其ノ行為ヲ律スルコトヲ特ニ訓示スルヲ要ス

ナリ英國ノ東方政策ヲ妨害シ合衆國ト非公式ノ交渉ヲ繼續シ以テ各國間ニ紛争ヲ生セシム表面的ニハ常ニ東方ニ於ケル平和ヲ確保スルノ最良ノ道ハ支那日本及露國ノ接近ナリト高唱スルヲ要ス